



ハイライフアンケート調査結果を読む 最終回（第六回）
東京と大阪の生活意識地域ギャップを見る
見え隠れする江戸っ子と浪速っ子気質

2011年4月27日

- 執筆:マーケット・プレイス・オフィス代表 立澤芳男(たつざわよしお)
- 流通系企業の出店リサーチ・店舗コンセプトの企画立案/都市・消費・世代に関するマーケティングの情報収集と分析
- 現ハイライフ研究所主任研究員/クレディセゾンアドバイザー
- 元「アクロス」編集長(パルコ)/著書「百万人の時代」(高木書房)ほか

ハイライフ研究所が実施した「都市生活者意識調査」(2010年10月実施)の調査結果を元に、既存データも活用し現在の生活者の生活価値観や生活行動の実際を見ます。

生活者の価値観や生活行動は、収入の高低、子供の有無、家族の多少、ローンの有無、未既婚、高齢者介護の有無や男女はもとより世代間で大きく異なります。そこでの生活意識の差異(ギャップ)は都市生活の変化を促し、居住地域全体の生活の地域差を生み出します。今回まで主に男女間、世代間の生活意識ギャップについてレポートしてきましたが、今回は地域差に焦点を当て、日本の二大地域文化圏を持つ「東京と大阪」の在住者の生活や生活意識を比較しながら、地域間ギャップについて分析しました。

現在の東京と大阪の在住者の生活意識・価値観のギャップ(差異)を地域間で見たものですが、それは、歴史や風土とそこで育成され根付いた生活意識

◆調査サンプル	調査数 (人)	性別(%)		未既婚(%)		年収平均 (万円)	住宅ローン(%)	
		男	女	未婚	既婚		ある	ない
TOTAL	1800	50.3	49.7	31.1	68.9	622	38.2	61.8
東京 計	1125	51.0	49.0	31.7	68.3	659	37.7	62.3
大阪 計	675	49.2	50.8	29.9	70.1	561	39.1	60.9

が作り出したものともいえます。生活の実際や価値観には、男女間や世代間と同様に地域間でも大きな違いが見られますが、地域間の生活意識の差異には都市文化の歴史と深い関係が見られます。

生活意識に地域ギャップ(差異)が存在する
東日本を代表する東京と西日本を代表する大阪の二大都市比較

<p>はじめに(p.2)</p> <p>I・生活意識の地域(東京と大阪)ギャップ(p.3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の生活満足度 2. 現在の生活水準 3. 2~3年後の生活見通し 4. 関心のある情報分野 5. 「買い物に対する意識・態度」 <p>II・家計事情の地域(東京と大阪)ギャップ(p.5)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 収入に関する生活意識 2. 支出に関する生活意識 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 資産・貯蓄に関する生活意識 4. 消費に関する生活意識 <p>III・生活気質の地域(東京と大阪)ギャップ(p.11)</p> <p>—大阪(浪速っ子)対東京(江戸っ子)—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食い倒れの大阪 2. 楽観的で内柔外剛的な東京在住者 3. 血縁・地縁志向が強い大阪、職場やペット、インターネット志向の東京 <p style="text-align: right;">* 執筆者メモ(p. 14)</p>
---	---

生活意識に地域ギャップ(差異)が存在する
東日本を代表する東京と西日本を代表する大阪の二大都市比較

はじめに

今回のレポートで東京と大阪を取り上げたが、東京は現在、東日本大震災と原発火災に見舞われ、計画停電や放射能汚染での食料供給不足などでライフラインが大きく乱れている。この非常時に電力供給力不足問題が浮上し、「関西から電力を供給してもらえ」という声が一斉に上がった。しかし、東京と大阪(関西)での電気は、東(ドイツ方式)と西(米国方式)では別ものということが確認され大きな話題になった。東西の規格や利用方法の違いを調べてみると、「畳や窓枠のサイズ」「行列のあり方」などなどライフスタイルの側面にもたくさんある。

その東西の違いは、江戸の頃から常に話題になっていたようで、江戸時代、禁欲主義・理想主義・行動主義的で寡黙な人格が好まれる江戸人に対し、大阪人は現実的で経済性を重んじる気風があり、商交渉を円滑にするものとして饒舌が歓迎されていたという。特に商都大坂から江戸へ金儲けにやってくる上方商人達は、「冗談好き、笑わせ好き、おしゃべり好き」「けち、守銭奴、拝金主義者」「食通、食いしん坊」「派手好き」「ど根性(逆境に強く)」であると江戸の人は受け止めていたようだ。こうした気風は、明治以降も引き継がれ、多くの企業家が大阪に集い、新しいビジネスにチャレンジしてきた。

一方、江戸は、「宵越しの金は持たない気風(きっぷ)」の良さが売り物だったが、江戸は半年に1回大火に見舞われ、金を貯めておくのが難しいまちでもあり、お金の保管が非常に難しかった。そこで、焼けたり盗まれるよりは使い切ってしまった方がいいとする「宵越しの金は持たない」江戸気質が生まれたのだといわれ、火事の多かった江戸文化の置き土産だという。

東京(江戸)や大阪(上方・浪速)は秀吉と続く徳川時代に隆盛し、日本の近代化の前から存在し、それぞれ上方文化や江戸文化といわれるように「都市文化」として熟成されており、今でも「京の着倒れ、大阪の食い倒れ、江戸の飲み倒れ」と継承されている。

一転、話を現代に引き戻すが、現在の東京と大阪の気風の違いについてみると、古い調査で恐縮だが06年10月実施のアンケート調査(社団法人「大阪アドバタイジングエージェンシーズ協会」)によると、電化製品の購入時に値切る大阪人は41%、東京人は26%。時間感覚の質問では、横断歩道の信号が青になる前に渡り始める人の割合は大阪が48%で東京の36%を大きく上回り、いつも青になる前に渡る人が大阪は1割以上もいた。ケチでせっかちとされる“浪速っ子”の実像が読み取れる。

以下、本編を通じて、現在の東京と大阪の在住者の生活や生活意識・価値観のギャップ(差異)を見ているが、現在見られる大阪と東京の生活意識の地域ギャップは、大阪や江戸の歴史や風土とそこで育成され根付いた生活が作り出したものなのではなかろうか。昔の大阪(浪速っ子)と東京(江戸っ子)の気質は、それぞれ生き続けているようで、東京が関西から電力を回してもらえないのは、「関西・大阪がけち」だというわけでは決していない。

東京と大阪の生活意識地域ギャップを見る 見え隠れする江戸っ子と浪速っ子気質

I・生活意識の地域〈東京と大阪〉ギャップ

東京と大阪在住者の都市生活に関する生活意識の地域ギャップを比較する

1. 現在の生活満足度／現在の幸せ感・幸福感(理想＝100点満点)

現在の都市生活について、東京と大阪に在住する生活者の生活意識(「生活満足度」「幸せ感」)を聞いたところ、在住者の生活満足や幸せ感については、都市間意識ギャップは全くといっていいほど無いことがわかった。

調査数(サンプル)		現在の生活満足度				平均点	幸せ感 100点 (満点)
		満 足 (+4点)	やや満足 (+3点)	やや不満 (+2点)	不 満 (+1点)		
東京 計	1125	17.9	56.4	21.7	4.0	2.88	70.4
大阪 計	675	17.8	56.4	21.6	4.1	2.88	70.6

2. 現在の生活水準

現在の生活水準について「都市比較①」と同様に聞いて見たところ、生活水準は、「中の中」は両都市とも53%と各々半数を占めるが、「上」や「中の上」において、東京在住の方が大阪在住者よりも若干高めになっている。

		現在の生活水準				
		上	中の上	中の中	中の下	下
東京 計		1.5	18.4	53.0	24.2	2.9
大阪 計		1.0	17.8	53.5	24.0	3.7

3. 2～3年後の生活見通し

生活の満足度や生活水準については決定的なギャップ(差異)は見られないが、今後の生活の見通しについては大阪在住者が悲観的な見方をしていることがわかる。本調査当時における地域経済の回復の度合いが如実に出ている。しかし、3月の東日本大地震や原発事故で東京圏は大打撃を受けているため、現在(4月初旬)では東京在住者の今後の見通しは悲観的というよりさらに悪化するものと思われる。

		2～3年後の生活見通し			
		良くなっていると思う	やや良くなっていると思う	やや悪くなっていると思う	悪くなっていると思う
東京 計		9.6	20.1	17.9	5.2
大阪 計		9.2	15.9	18.8	5.6

4. 関心のある情報分野(MA)

東京と大阪在住者に「関心ある情報分野」を聞いてみると、東京、大阪共通して「経済・景気」「食べ物・料理」「趣味」がベスト3に挙がっており、各々40%以上の人に関心を持っている。しかし、詳細に比較してみると、東京と大阪の関心分野に大きな違いがあることがわかる。東京が大阪を大きく上回っているのは「趣味」「ファッション」「企業市場ビジネス」の情報分野で、大阪が東京を上回っているのは「老後」「政治」「スポーツ」の情報分野である。東京は外交的で流行的な物事が生まれる情報分野に強く関心を持ち、大阪は身近で日常的な生活情報分野に強い関心を持つという違いが見られる。

関心のある情報分野ベスト10					関心のある情報分野の東京・大阪比較					
東京 計		大阪 計			東京>大阪			大阪>東京		
1位	経済・景気	46.3	経済・景気	47.3	1位	趣味	4.9	1位	老後	2.6
2位	食べ物・料理	44.7	食べ物・料理	44.9	2位	ファッション	4.0	2位	政治	1.9
3位	趣味	41.3	健康	41.6	3位	企業・市場・ビジネス	3.5	3位	スポーツ	1.6
4位	健康	40.4	スポーツ	40.0	4位	芸能	3.0	4位	医療	1.5
5位	スポーツ	38.4	政治	38.7	5位	教育・育児	2.4	5位	健康	1.2
6位	旅行	38.4	旅行	37.9	6位	住まい・インテリア	2.3	6位	経済・景気	1.0
7位	政治	36.8	趣味	36.4	7位	新商品	1.7	7位	地域再生	0.8
8位	ファッション	34.1	ファッション	30.1	8位	環境・エコ	1.7	8位	美容	0.7
9位	芸能	30.9	芸能	27.9	9位	食べ歩き・グルメ	0.5	9位	食べ物・料理	0.2
10位	食べ歩き・グルメ	27.6	食べ歩き・グルメ	27.1	10位	旅行	0.5	10位	その他	0.2

5. 「買い物に対する意識・態度」

日常生活行動で最も重要なものである「買い物」についてその意識や態度について、東京と大阪の在住者を比較してみる。大阪が東京を上回る回答例のリスト(右表)をまとめたが、それによると、「買い物にはチラシを参考にする」「パーゲンを買うことが多い」「タイムサービスがあると、つい買ってしまう」などが東京を大きく上回っており、とかく「金に細かく計算高いが、裏表がなくすべての欲求をストレートに押し出し、価値があれば金払いは良い」といわれる「大阪浪速っ子」気質がそこに見ることができる。

大阪が東京を上回る／大阪>東京		
1位	買い物にはチラシを参考にする	6.8
2位	パーゲンを買うことが多い	4.2
3位	タイムサービスがあると、つい買ってしまう	3.6
4位	欲しいものがあると無理しても買ってしまう	2.5
5位	何か買う時は現金を使うことが多い	2.3
6位	多くの人が使っているメーカー・ブランドのものを選ぶことが多い	2.1
7位	極端に値段の安い商品は買わない	1.8
8位	デザインよりも機能を重視して買うことが多い	1.6
9位	通信販売で買い物をしたことがある	1.4
10位	おまけや懸賞がついていると、その商品を買ってしまう	0.7
11位	1円でも値段の安い店に買いに行く	0.6
12位	品質や安全性に疑問があっても、安い商品を選ぶことが多い	0.6
13位	何か買う時はクレジットカードを使うことが多い	0.3

II・生活家計事情における地域〈東京と大阪〉ギャップ

損して得を取りとことん知恵出す大阪商法に鍛えられた浪速っ子(大阪の人)は、けちでせっかちとされるが、一方、全国から人が参集し、宵越しの金は持たないという土壌で育った江戸っ子(東京の人)は、粋で軽妙洒脱なれど、気が短くてケンカっ早いという。今日でもその地域気質が残っているのかどうか、東京と大阪の在住者の現在の生活家計事情〈収入、消費、資産・貯蓄〉を比較してみた。

1. 収入に関する生活意識

1) 収入の満足度

収入の満足度について東京と大阪在住者に聞いてみたところ、「満足〈満足・やや満足〉」は東京・大阪ともに 23%となり、約 70%以上が「やや不満・不満」と答えともに不満度は高い。特に東京は「不満」(28.1%)が満足(4.2%)を大きく上回っている。

大阪は「やや不満」と答えたのが 40%を越えるが、大阪人は直接的な回答表現を避け、若干面白がる癖もあり、このような回答率になったのではなかろうか。調査時の経済事情から見ると関西経済も厳しい状態であったのも事実であるが・・・。

収入の満足度(収入のある者のみ)							
	調査数	A 満足 している	B やや満足 している	満足(A+B)	やや不満	不満	なんともい えない
東京 計	865	4.2	19.0	23.2	34.8	28.1	14.0
大阪 計	527	4.0	19.0	23.0	40.8	22.0	14.2

2) 今後の収入の増減

今後の収入の見込みを聞いたところ、「あまり変わらない」と答えたのが東京と大阪ともに 50%前後で見通しとしては現状維持としている。しかし、見通しの増減では、東京は「増加する(16.5%)」で大阪(14.2%)を大きく上回り、「減少する」では大阪が37.0%と東京(28.3%)を約10%ポイントを上回った。調査当時の景況も影響しているが、大阪人の商売(収入)に対する意識は、常に厳しい目を持つように見受けられる。。

今後の収入の増減(収入のある者のみ)				
	調査数	増えていくと思う	(あまり)変わらないと思う	減っていくと思う
東京 計	865	16.5	55.1	28.3
大阪 計	527	14.2	48.8	37.0

3) 収入と支出のバランス

東京と大阪の在住者に「収入と支出のバランス」を聞いてみだが、「収入と支出は同じくらい」がともに 50%前後になっているが、東京と大阪を比べると、東京の方がまだましという結果となっており、「今後の収入見通し」と同様、楽観的な回答を得た。

収入と支出のバランス(「収入のある者」のみ)				
	調査数	収入が支出を上回っている	収入と支出は同じくらい	支出が収入を上回っている
東京 計	865	21.3	50.8	28.0
大阪 計	527	19.0	50.7	30.4

4) 補填方法(MA)

「支出が収入を上回っている者」のみにその「補填方法」を聞いてみた。

東京と大阪ともに「預貯金・金融資産の取り崩し」「出費の節約」が中心になっているが、大阪は「現金」の動きを重視し、その補填方法を選択する人が強い。

一方、東京は大阪より就業機会が多いせいか、「アルバイトやサイドビジネス」あるいは「配偶者」にその補填方法を見出す気配が見られる。

補填方法(MA) (「支出が収入を上回っている者」のみ)			
	東京 計	大阪 計	東京>大阪
預貯金・金融資産の取り崩し	57.4	65.6	-8.2
出費の節約	33.9	39.4	-5.5
親(子)などからの援助	18.6	19.4	-0.8
借金(キャッシング等)	12.8	11.3	1.5
不動産資産の活用	1.2	0	1.2
金融資産の運用	2.1	0.6	1.5
配偶者が働きに出る	28.9	26.3	2.6
アルバイトやサイドビジネス	16.5	10.0	6.5
(調査数)	(242)	(160)	

2. 支出に関する生活意識

今後重点的に増やしたい支出や減らしたい支出について聞いてみた。収入のバランスを取るために極力出費を抑えるシブチン(?)の大阪人が、どのように振る舞うのかを見てみる。

1) 重点的に増やしたい支出(MA)

東京と大阪ともに「貯蓄」「趣味・娯楽費」「小遣い」が上位を占めたが、全般的に大阪は「増やしたい」という行動には消極的である。但し、東京と比べると「食料費」が 12.9%と東京より 3%ポイント高く、食い倒れ志向が東京より強く見られる。

		増やしたい支出項目	東京 計	大阪 計	東京>大阪
重点的に増やしたい支出(MA)	貯蓄		51.0	44.0	7.0
	趣味・娯楽費		33.9	32.4	1.5
	小遣い(ご自分、家族、親等も含みます)		27.5	25.6	1.9
	教育費		13.6	11.6	2.0
	交際費		12.5	12.9	-0.4
	無回答(特になし)		12.4	17.8	-5.4
	衣料品・靴・バッグ等の購入費		10.1	9.7	0.4
	食料費(外食費・給食費を含みます)		9.5	12.5	-3.0
	家電・インテリア・家事用品等の購入費		7.2	7.0	0.2
	家賃・住宅の修繕費(住宅ローンは含みません)		4.7	3.6	1.1
	保健医療費		2.1	2.8	-0.7
	各種ローンの返済費(住宅ローンを含む)		1.8	0.4	1.4
	自家用車関連費(ガソリン代、保険、駐車場代、車検等を含む)		1.5	1.5	0.0
	通信費(携帯電話・インターネットを含みます)		1.2	2.7	-1.5
	(調査数)		(865)	(527)	

2) 重点的に減らしたい支出(MA)

「支出を減らしたい」とする項目は、水道光熱費や通信費、食料費などの日常生活の経常経費分野の項目に多岐に亘るが、東京と大阪を比べると、「支出を増やす」のに消極的だった大阪在住者は一転し、「支出を減らしたい」について積極的になっている。

	支出項目	東京 計	大阪 計	東京<大阪
重点的に 減らした い支出 (MA)	水道光熱費(電気・ガス・水道費)	36.1	39.3	3.2
	通信費(携帯電話・インターネットを含みます)	30.3	30.9	0.6
	食料費(外食費・給食費を含みます)	24.6	26.6	2.0
	保健医療費	23.4	22.2	-1.2
	自家用車関連費(ガソリン代、保険、駐車場代、車検等を含む)	19.2	23.5	4.3
	各種ローンの返済費(住宅ローンを含む)	17.3	18.8	1.5
	無回答(特になし)	14.7	12.0	-2.7
	交際費	12.9	14.6	1.7
	衣料品・靴・バッグ等の購入費	12.4	17.6	5.2
	家賃・住宅の修繕費(住宅ローンは含みません)	12.1	14.6	2.5
	交通費(電車・バス代、定期代、タクシー代等)	11.6	13.5	1.9
	家電・インテリア・家事用品等の購入費	10.6	14.2	3.6
	趣味・娯楽費	8.4	11.8	3.4
	教育費	7.6	8.5	0.9
	小遣い(ご自分、家族、親等のも含みます)	5.5	6.3	0.8
	貯蓄	0.8	1.1	0.3
その他の費用	0.1	0.6	0.5	
	調査数	865	527	

3. 資産・貯蓄に関する生活意識

資産・貯蓄の有無は、経済的ゆとりの度合いで左右されるが、宵越しの金は持たないといった江戸っ子気質は東京人に受け継がれているのか、現金により価値を求める大阪人氣質は継承されているのか。現代の東京と大阪在住者の「資産・貯蓄に関する意識に生活意識はどうか」を見た。

1) 経済的なゆとり

経済的ゆとりについて東京・大阪の在住者に聞いてみたが、「あまりゆとりが無い」と答えた人は、それぞれ約50%になっている。「ゆとりが無い」と答えたのは東京が21.5%、大阪が24.3%となっている。「ゆとりあり」はそれぞれ1.8%、2.7%と極端に少ない。経済的ゆとりのなさは東京・大阪の実態を表している。

経済的なゆとり						
	調査数	A ゆとりがある	B ややある	ゆとりあり(A+B)	あまりゆとりはない	ゆとりはない
東京 計	1125	1.8	26.8	28.6	50.0	21.5
大阪 計	675	2.7	23.9	26.6	49.2	24.3

2)貯蓄

貯蓄について聞いてみたところ、「貯蓄はしていない」と答えたのは東京で26.7%、大阪では28.9%となっており、ともに多めにカウントされたが調査サンプルに学生や主婦が入っているためと思われる。全体的には東京は大阪より貯蓄志向が強いようだ。東京の「宵越しの金は持たない」という気質は消えつつあるのかもしれない。大阪は、銀行や「金融機関を全面的に信用するな」という大阪商人の教訓が生きているのかもしれない。

貯蓄					
	調査数	毎月額を決めて貯蓄している	額は決めてないが毎月貯蓄をしている	毎月ではないが貯蓄をしている	貯蓄はしていない
東京 計	1125	26.4	15.6	31.4	26.7
大阪 計	675	17.5	15.6	38.1	28.9

3)貯蓄理由(MA)

貯蓄している者のみ(調査数 東京 825、大阪 480)に「貯蓄理由」を聞いてみたところ、東京大阪ともに「予定外の支出に備えて」「老後に備えて」がそれぞれ約50%と答えている。差異が見られたのは、「雇用などの将来不安に備えて」という理由は大阪が東京より高く、一方、「なんとなく」が東京が大阪より高くなっている点である。大阪在住者の堅実な家計の考えが読み取れる。

貯蓄理由(MA) / 貯蓄している者のみ			
	東京 計	大阪 計	東京>大阪
予定外の支出に備えて	49.5	49.8	-0.3
老後に備えて	47.8	49.0	-1.2
子どもの教育資金	29.5	31.9	-2.4
雇用などの将来不安に備えて	17.9	22.5	-4.6
旅行資金	17.5	20.0	-2.5
車や家電等の耐久消費財の購入資金	11.6	14.8	-3.2
何となく(特に理由はない)	10.5	7.7	2.8
住宅の購入資金	6.7	5.0	1.7
結婚資金	5.8	6.3	-0.5
その他	0.2	0.2	0.0

4)現在利用している資産運用手段(MA)

東京・大阪在住者に「現在利用している資産運用手段」を聞いてみたが、「しているものはない」と答えたのが東京、大阪それぞれ71.5%、71.9%となっている。「運用や投資している」のはともに約3割にしか過ぎない。運用先を見ると若干の差であるが、東京は収益志向、大阪は安全志向が強いことがわかる。

		東京 計	大阪 計	東京>大阪
資産運用・投資しているものはない		71.6	71.9	-0.3
現在 利用 して いる 資産 運用 手段	個人年金保険	14.2	15.6	-1.4
	株式	11.4	9.5	1.9
	投資信託(債権型)	4.7	6.5	-1.8
	国債	4.8	4.3	0.5
	投資信託(株式型)	4.6	4.4	0.2
	外貨預金(外貨定期預金を含む)	3.0	5.3	-2.3
	不動産	2.3	1.3	1.0
2%以下「株式・投資信託の毎月の定期購入、社債、不動産投資信託(REIT)、金(ゴールド)、外国為替証拠金取引(FXなど)、商品先物取引」				

4. 消費に関する生活意識

進取の気性を旨とし、経済的合理性を備え、文化的にも町人・大衆に土台を置いた都市の気風を作り上げた大阪。とかく関西人は「ケチ」と言われるが、これは儉約家であることの裏返し。

電化製品の購入時に値切る大阪人は41%、東京人は26%という調査結果もある。

消費を楽しむ大阪人と消費に冷めた目を持つ東京人に、どのような消費意識のギャップ(差異)が見られるのかを見た。

1) 買い物に対する意識・態度(MA)

買い物に対する意識・態度について東京と大阪在住者に聞いてみると、どちらも買い物については、現金での安価商品購買意欲が強く、また商品にかかわる情報を取り入れ選択購入している。

東京と大阪の買い物意識の違いは、東京在住者は「事前に買う商品をメモして買い物に行くことが多い(27.8%)」「新しい商品が出ると試しに買ってみることもある(27.6%)」に強く反応している。

大阪在住者は「バーゲン品を買うことが多い(29.8%)、極端に値段の安い商品は買わない(26.7%)」に強く反応するなど、大阪の在住者は東京の在住者に比べると、チラシや、バーゲン、タイムサービスなど商売する側のアイデアに強く関心を持っている。

「価格に敏感」「商売アイデアに敏感」といった生活意識を

遺憾なく発揮してるように見受けられる。大阪は商人泣かせの消費者が溢れているということか。

買い物に対する意識・態度ベスト 10			
項目(調査数:東京 1125、大阪 675)		東京計	大阪計
1位	何か買う時は現金を使うことが多い	53.0	55.3
2位	通信販売で買い物をしたことがある	48.8	50.2
3位	値段が安ければ無名メーカーのものでも買う	46.4	46.1
4位	何か買う時はいろいろ比較して買うことが多い	41.9	39.7
5位	買い物にはチラシを参考にする	35.6	42.4
6位	同じ買うのなら、高くても気に入ったものを買う	35.5	33.1
7位	買い物はストレス解消になる	32.3	26.8
8位	ポイントやマイレージのつく店やサービスのほうを使う	30.5	29.2

「大阪」が「東京」を上回る買い物に対する意識・態度		
大阪が東京よりポイントが高い項目(アッパーポイント)		
1位	買い物にはチラシを参考にする	6.8
2位	バーゲン品を買うことが多い	4.2
3位	タイムサービスがあると、つい買ってしまう	3.6
4位	欲しいものがあると無理しても買ってしまう	2.5
5位	何か買う時は現金を使うことが多い	2.3
6位	多くの人が使っているメーカー・ブランドのものを選ぶことが多い	2.1
7位	極端に値段の安い商品は買わない	1.8
8位	デザインよりも機能を重視して買うことが多い	1.6
9位	通信販売で買い物をしたことがある	1.4
10位	おまけや懸賞がついていると、その商品を買ってしまう	0.7
11位	1円でも値段の安い店に買いに行く	0.6
12位	品質や安全性に疑問があっても、安い商品を選ぶことが多い	0.6

2)家電エコポイントやエコカー減税、エコカー補助制度利用状況

調査時の10月は、景気回復を狙った家電エコポイントやエコカー減税、エコカー補助制度が実施され、それなりの消費経済効果が見られたが、このポイント制度や減税を、東京と大阪でどのように受け止められたのかを見る。家電エコポイント、エコカー減税・補助金で購入意識がどう変わったのかを東京と大阪の在住者に聞いてみた。

家電エコポイント、エコカー減税・補助金が「なければ家電や車を購入しなかった」と回答した人は、大阪では「家電ポイント」には31.5%、「エコカー減税」では57.4%、「エコカー補助金」では71.7%と、東京のそれを大きく上回った。東京在住者は「なくても買ったと思う」人が家電では73.7%、車は50%超えとなっている。購入時におけるサービスや価格に対して大阪の在住者は大きな関心を示したことがわかった。

エコポイント。補助についての施策	反応	東京計	大阪計
・家電エコポイント購入意識が変わったか (調査数)東京415、大阪254	なければ買わなかったと思う	26.3	31.5
	なくても買ったと思う	73.7	68.5
・エコカー減税で購入意識が変わったか (調査数)東京73、大阪47	なければ買わなかったと思う	45.2	57.4
	なくても買ったと思う	54.8	42.6
・エコカー補助金で購入意識が変わったか (調査数)東京67、大阪46	なければ買わなかったと思う	46.3	71.7
	なくても買ったと思う	53.7	28.3

3)電子マネーの利用について

今、話題の電子マネーについて、いくつかの質問に答えてもらったが、東京は「電子マネー」への反応が高く、大阪は反応が低い。

電子マネーを「特に使っているものはない」とする人が大阪では63%もいるが、利用もしていないのにお金を入れておくということに違和感を持っており、大阪の人は批判的である。利用している場合でも、「ポイントが溜まるから」という理由が東京よりかなり高い数値が出ている。

実をとるという大阪の生活意識が強く見られる。

①電子マネー利用		
	東京計	大阪計
(調査数)	(1125)	(675)
特に使っているものはない	22.5	63.0
②ふだん使用している電子マネー(MA)		
Suica(スイカ)	47.1	0.6
PASMO(パスモ)	37.6	0.4
nanaco(ナナコ)	10.8	3.6
WAON(ワオン)	5.1	6.7
Edy(エディ)	4.7	7.1
ICOCA(イコカ)	0.3	14.7
PiTaPa(ピタパ)	0.0	15.4
iD(アイディー)	2.0	1.6
QUICPay(クイックペイ)	0.7	0.6

③電子マネー利用理由(MA)		
	東京計	大阪計
(調査数)	(872)	(250)
支払いが短時間で済む	57.1	46.4
小銭を用意しなくてもよい	61.5	56.4
ポイントがたまる	18.7	38.4
手持ちのお金を気にしないで支払いができる	15.5	22.8
オシャレだから	1.1	2.4
その他	0.1	0.4
特に理由はない	9.3	9.2

Ⅲ・地域性・県民性 大阪(浪速っ子)気質対東京(江戸っ子)気質

大阪は進取の気性を旨とし、新しいモノ好きで、“独自性”を尊ぶという土地柄をつくりあげてきた。大阪の人は総じてアップテンポでユーモアに富み、外向的と評価されている反面、腰が軽く、せっかちとも揶揄される。一方、江戸っ子の宵越しの金は持たない気風(きっぷ)の良さは、火事の多かった江戸文化の置き土産だという。かつて江戸っ子は、粋で軽妙洒脱なれど「火事とケンカは江戸の華」とばかり、セカセカと動きまわりカッと頭に血がのぼりやすい。気が短くてケンカっ早いというのが、江戸っ子気質だったそう。

そんな浪速っ子と、江戸っ子の気質は、現在の東京と大阪の都市生活在住者にどのように引き継がれているのか。

1. 食い倒れの大阪

「京の着倒れ、大阪の食い倒れ、江戸の飲み倒れ」という。「京都の人間は着物道楽が過ぎて、大阪の人間は美食が過ぎて、江戸の人間は良い酒を飲み過ぎて財産を失う」との意味だそう。

本調査「食」に関していくつかの質問を投げかけているが、大阪は、「食い倒れ」精神が健在であることがわかった。どの質問にも関しても、大阪人は東京人よりも「食」への関心や思い入れは「楽しい」ものとして強く反応を示している。

	①いろいろな味を楽しんでいる		②食べるのが楽しい	
	あてはまる	ややあてはまる	あてはまる	ややあてはまる
東京 計	16.5	47.2	44.1	45.9
大阪 計	19.4	45.8	47.4	42.5

	③外食の際、何をどこで食べるか店を選ぶのが楽しい		④外食に行くのが楽しみ	
	あてはまる	ややあてはまる	あてはまる	ややあてはまる
東京 計	27.4	42.7	34.0	41.4
大阪 計	31.4	39.0	37.2	40.4

2. 楽観的で内柔外剛に対応する東京在住者

内柔外剛とは、自分にばかり柔和で、他に対しては強く、一方で、内面は弱いのに、外見は強く見えることを意味するが、東京人は「時間に追われる多忙な社会になっている」と言いつつ、その「忙しさを」容認するような生活態度が見られる。また、東京と大阪在住者に「世の中は平等と思うか」「近未来予想」について聞いてみたが、大阪の現実的で経済性を重んじ厳しい社会観に対し、東京は若干ではあるがどちらかという、楽観的で理想主義・行動主義的に捉える様子が見られる。

1) 忙しい東京人の生活

今の社会は、時間に追われる多忙な社会になっている				
	調査数	A そう思う	B ややそう思う	多忙 (A+B)
東京 計	1125	34.7	47.7	82.4
大阪 計	675	31.3	48.0	79.3

2) 厳しさに欠ける東京在住者

世の中は平等だと思うのか							
	調査数	A 平等だと思う	B どちらかといえば平等だと思う	平等(A+B)	どちらかといえば不平等だと思う	不平等だと思う	わからない
東京計	1125	1.1	20.0	21.1	46.6	27.3	5.1
大阪計	675	1.2	17.9	19.1	47.3	27.9	5.8

3) 楽観的な東京在住者

近未来予想／経済的に豊かな社会				
	調査数	なると思う	ならないと思う	わからない
東京 計	1125	5.1	74.4	20.5
大阪 計	675	4.6	76.3	19.1

4) 反体制・反官精神が健在の大阪在住者

今の社会は、規則やルール優先で個人の自由が失われている						
	調査数	A そう思う	B ややそう思う	自由が失われている(A+B)	あまりそう思わない	そう思わない
東京計	1125	8.3	29.2	37.5	46.4	12.6
大阪計	675	9.8	31.0	40.8	43.3	12.4

3. 血縁・地縁志向が強い大阪、職場やペット、インターネット志向の東京

大阪と東京はともにそれぞれ古い歴史が有る。その歴史は、そこに居住し続けた人たちの歴史でもある。東京は江戸時代から多くの人流れ込み大都市化してきた。一方、大阪は拡大する東京・江戸との競争に常にさらされてきた。しかし、ともに変化してはいるが、そこには上方文化と江戸文化が都市文化として生き続けている。

変化を成長の糧とする東京在住者と変化に動じない大阪という都市に在住する人に、「あなたが大切に思っている人」「あなたのよりどころ」を聞いてみた。

1) 大切に思っている人(MA)

「大切に思っている人」について聞いてみたところ、東京も大阪も上位に「親」「きょうだい」「子ども」「配偶者」など家族の人が上がっている。

東京と大阪を比較してみると、東京は「親」「配偶者」が大阪を上回り、大阪は「きょうだい」「子ども」が東京を上回っている。全体を通してみると、どちらかといえば、大阪は血縁(親戚)や地縁(町内会など)での付き合いでの信頼関係が強く、東京は学校や職場やインターネットで関係ができた人たちとの信頼関係を大切にしているようだ。

大切に思っている人		東京 計	大阪 計	東京>大阪
1位	親	80.0	76.6	3.4
2位	きょうだい	70.7	73.3	-2.6
3位	子ども	65.6	67.0	-1.4
4位	配偶者	62.9	62.5	0.4
5位	学校や学生時代の友人・知人	60.5	60.0	0.5
6位	親 戚	47.6	50.5	-2.9
7位	隣近所の友人・知人	46.4	53.2	-6.8
8位	勤務先や仕事上の友人・知人	40.6	42.2	-1.6
9位	趣味・ボランティア活動を通じての友人・知人	30.7	28.7	2.0
10位	町内会・自治会などを通じての友人・知人	12.8	18.4	-5.6
11位	インターネットを通じての友人・知人	5.0	3.7	1.3
12位	特にいない	1.2	0.6	0.6
13位	その他	0.1	0.3	-0.2

2) よりどころ(MA)

東京と大阪在住者に「あなたのよりどころ」を聞いてみたが、「大切だと思う人」での回答と重複しているが、東京では「ペット」とする答え(16.6%)が「親戚」や「おさななじみ」と答えた人を上回り、第8位にランクしている。人との付き合いが少ないうえ、多忙であるとする東京在住者ならではの回答率となっている。ちなみに大阪でも12.9%いる。

大阪が東京を上回るのは、「健康」「貯蓄・資産」など実質的具体的なもの、あるいは、「近所、地元」「お寺や教会」など地域とのつながりのあるものである。ここでも実質経済的価値観を重視する大阪と隣人関係の希薄な東京での生活の違いが浮き彫りになっている。

		東京計	大阪計	東京>大阪			東京計	大阪計	東京>大阪
1位	子ども	57.4	57.9	-0.5	14位	孫	12.8	16.4	-3.6
2位	配偶者	53.2	52.7	0.5	15位	恋人	7.9	8.7	-0.8
3位	友人(幼なじみを除く)	50.4	49.9	0.5	16位	近所、地元	7.5	12.0	-4.5
4位	親	47.4	46.1	1.3	17位	ふるさと	6.7	7.7	-1.0
5位	きょうだい	37.9	40.7	-2.8	18位	インターネット	5.8	5.2	0.6
6位	趣味	32.1	27.7	4.4	19位	学校	4.6	5.6	-1.0
7位	趣味・スポーツの集まり	23.6	25.0	-1.4	20位	貯蓄・資産	4.6	5.9	-1.3
8位	ペット	16.6	12.9	3.7	21位	病院・医師・看護師	3.6	5.2	-1.6
9位	親戚	14.8	15.4	-0.6	22位	特にない	3	2.7	0.3
10位	幼なじみ	14.5	16.6	-2.1	23位	お寺や教会など	2.8	4.1	-1.3
11位	自然	13.9	12.9	1.0	24位	地域のコミュニティ	2.2	3.4	-1.2
12位	健康	13.6	16.4	-2.8	26位	占い	1.3	1.5	-0.2
13位	職場	13.2	11.4	1.8	26位	各種相談所・役所・民生委員	0.6	1.5	-0.9

執筆者メモ

昨年末から本シリーズをスタートさせ、最終回は生活意識の「地域間格差」をテーマにと目論んでいたところ、3月11日に東北地方沿岸に未曾有の大津波を伴う大地震が襲い、加えて津波により東電の福島原発が一部破壊され放射能が首都圏にも拡散する事態に陥った。大地震や原発・放射能の暴力的とも言うべき被害状況(テレビの映像を通してであるが)を前にして、地域も地域格差もへったくれもないということ、と同時に東北地方被害地域の高齢者の多さを思い知らされたが、逆に地域や都市の問題の重さも感じた。

これから復興計画や都市再生計画が発表されるだろうが、将来高齢化がさらに進む日本という視点と自然環境保護という視点を抜きに再生はありえない。まさか残骸瓦礫の跡地を再びコンクリートで埋め尽くすことはないだろうと願うしかない。

東日本大震災と原発火災による被害状況を見て考えさせられたことのひとつは、都市と自然の関係である。明治以降の日本の都市化は人間が自然を日本の各地で人工的に破壊して日本全体の経済を成長させるために推進されてきた。そして、今回の巨大地震と津波と経済成長の核である原発火災によって、人間の都合のよいように自然を破壊して道路、鉄道、港、原子力発電所を設置し地域を活性化してきた街が、ものの見事に吹き飛ばされた。災害と文明(都市化)は逆法則にあることを確認したことである。

もうひとつは、東北地方の都市復興・再生にあたっては、漁業復活が中心テーマとなるであろうが、豊かな海や海岸だけでなく、山や森や川や湖など自然もさることながら、一番大事な人間を破壊するなということである。

一ヶ月経った今、やっと都市生活の原状回復に向けてスタートを切ったようだが、簡単には復興・再生というわけにはいきそうもない。それは被害規模の大きさの問題だけではない。少子高齢社会の地域都市再生や自然環境保護という地球環境のテーマに加えて、都市文化づくりというテーマを抱えているからだ。

今回のレポートでは、現代の東京と大阪の在住者の生活意識のギャップ(というより地域の特徴といったほうが良いかもしれない)について分析を進めてきたが、わかったことは、都市文化の存在価値である。

東京は「江戸文化」と「江戸っ子気質」が、大阪には「上方文化」と「浪速っ子気質」が数百年を経ても、現代の生活に見え隠れし生きている。江戸とか上方とかの都市文化は、当時の権力者の理念と強大な軍事・経済力によって大衆を巻き込んで出来上がったわけだが、そこには、近代以前の日本人には「自然への畏敬」が宿っているといわれているように、まさにその自然への畏敬の念がベースにあったからこそ、都市文化が成熟したのだと思う。

大阪ことば、京ことば、江戸ことばが現在社会でも生き延びているのは、その地域の個性的な自然・風土と歴史とそこに生き続けた個性的な人達の文化の賜物である。地域の言葉を失うことは文化が消えることであり、文化の喪失は自然破壊からはじまるのである。自然への畏敬を失った「バラ撒きの都市開発」はその場限りの利権活動の争奪戦の場となるだけで、決して都市文化を生み出す都市にはなりえず、「短命の都市」作りで終わるはず。街づくりは都市文化(文明ではない)なのだと考えておかねばならないと思う。

ハイライフデータファイル 2010 ハイライフアンケート調査結果を読む

都市生活に大きな変化が起こっている・シリーズ

- 第一回 多様化した生活価値観と生活行動／2010年12月22日
 - 第二回 ストレスたまる現在の都市生活／2010年12月22日
 - 第三回 デフレ消費の中、家計節約生活に学習効果が現る 2011年1月26日
 - 第四回 男女の生活意識に大きなギャップが…。／2011年2月23日
 - 第五回 生活意識に大きな世代ギャップが…。／2011年3月23日
 - 最終回 東京と大阪の生活意識地域ギャップを見る／2011年4月27日
- 見え隠れする江戸っ子と浪速っ子気質

決して都市文化を生み出す都市にはなりえず、「短命の都市」作りで終わるはず。街づくりは都市文化(文明ではない)なのだと考えておかねばならないと思う。

(2011.4.27 記・立澤)